

平成28年度

# 所 報



鳥取市教育委員会  
鳥取市教育センター

## はじめに

鳥取市教育委員会は、平成28年4月に「鳥取市教育振興基本計画」を策定し、「ふるさとを思い 志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代を“ひらく”！」の基本理念のもと、様々な施策に取り組んでいます。鳥取市教育センターも開設から10年目を迎え、学校教育の総合的な相談・支援施設として、その担う役割はますます大きくなってきています。

今年度は、本教育センターに「特別支援教育係」を新設し、一人一人の社会的自立に向け、教育的ニーズに対応した切れ目のない一貫した支援とワンストップの相談体制の充実に努めてきました。「情報の伝達と共有」をキーワードに、特別支援学級・通級指導教室の運営に対する支援に取り組んできたほか、全学習の基礎となる音読の改善をめざす「T 式ひらがな音読支援事業」、園における教育相談・支援体制の構築を図る「早期支援事業」等の取り組みも定着してきました。また、適応指導教室「すなはま」及び「レインボー」（旧けたかレインボー）は、計23名の児童生徒を受け入れ、個別のSSTや保護者相談等の充実も図りながら学校復帰を支援してきました。

研修企画係においては、1年間の学級経営や学習指導を見通しながら、初任者研修会や講師研修会の時期・内容等を工夫し、若手教員育成の研修に力を入れるとともに、初任者の学校訪問を通して、校内での研修状況を把握し、教育センターでの研修にも生かすよう努めてきました。「次代を担うとっとり教職員派遣事業」は、夏までに県外派遣を実施し、全教職員対象研修会で報告することで、研修内容を年度内に学校教育に生かすサイクルができました。また、小学生対象の「きなんせ！ English World」も4年目となり、この体験がきっかけで今年度鳥取市教育委員会が実施したシンガポール派遣研修に参加した中学生もあり、子どもの視野を広げる取り組みとなっています。

国においては、次期学習指導要領案が出され、改訂に向けた準備が進められています。子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するためには、教職員の指導力の向上が不可欠です。そのためにも、平成30年4月に鳥取市が中核市に移行する機会を生かして、市ならではのきめ細やかな教職員研修を企画してまいります。特別支援教育においても、保健・医療・福祉部局とより一層の連携をめざしており、鳥取市教育の充実・発展をめざして、「新たな鳥取市教育センターの創造」に取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の教育センター運営に対し、格別のご協力とご支援を賜りました関係諸機関の皆様には厚く感謝申し上げますとともに、今後とも、より一層のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年3月

鳥取市教育センター  
所 長 竹内 通恵

# 目 次

はじめに

## I 鳥取市教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

## II 平成28年度の事業概要

1	特別支援教育の推進	2
2	教育相談事業	4
3	適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営	6
4	学校支援 ～T式ひらがな音読支援事業～	10
5	学校支援 ～早期からの教育相談・支援体制構築事業～	12
6	教職員研修	14
7	学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～	17
8	きなんせ！English World	18

# I 鳥取市教育センターの概要

## 1 設置の目的

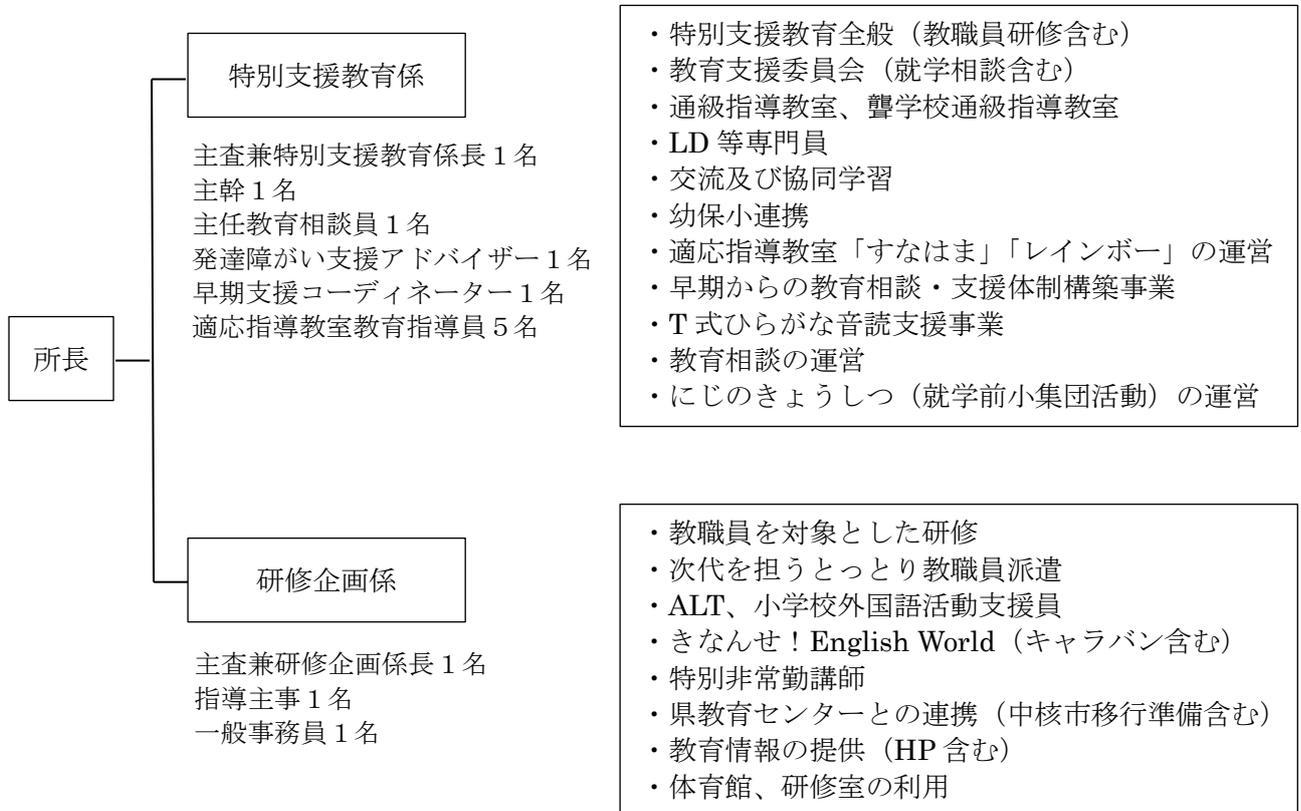
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例」より)

## 2 沿革

平成 19 年 4 月 1 日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町 150 番地に鳥取市教育センター設置
平成 19 年 4 月 26 日	鳥取市教育センター開所式
平成 20 年 4 月 1 日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所 3 階に移設
平成 28 年 4 月 1 日	特別支援教育係を新設、研修企画係との 2 係体制
平成 28 年 11 月 11 日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所 2 階に移設 「レインボー」に名称変更

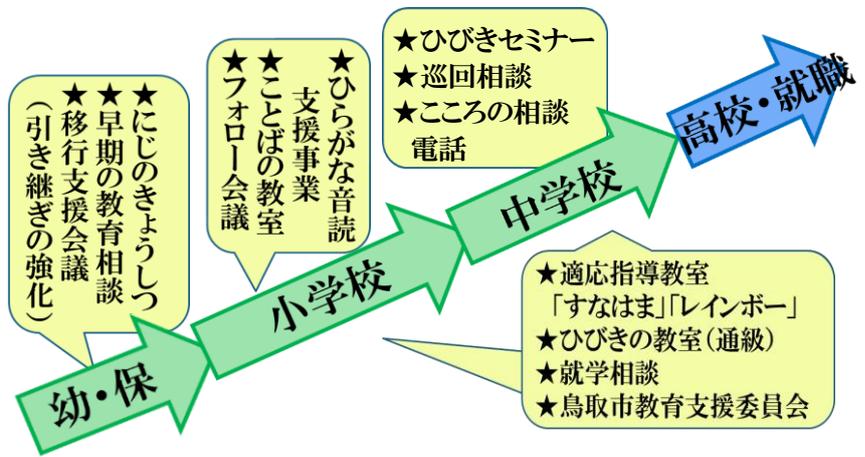
## 3 組織及び業務



# 1 特別支援教育の推進

## 特別支援教育係の新設

特別な配慮が必要な子どもの学校適応に向けて支援の充実を図るとともに、一人一人の「社会的自立」に向け、教育的ニーズに対応した切れ目のない支援とワンストップの相談体制の構築を図る。



【ミッション】情報の伝達と共有システムの構築

### (1) 取り組み内容

- ① 「鳥取市立小中学校における障がいと理由とする差別の解消に関する教職員対応要領」の策定と周知

・10月1日に施行し、校長会・研修会等で周知を図った。

- ② 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用

・全市統一の様式を活用することで、校種間・学年間の引き継ぎの徹底と一貫した支援の充実を図った。

- ③ 教育支援委員会の運営

教育委員会	審査期日	審査件数
第1回教育支援委員会	H28. 9. 29	33名
第2回教育支援委員会	H28. 11. 24	122名
教育支援委員会 (特別審査)	H28. 12. 15	23名
教育支援委員会 (特別審査)	H29. 1. 26	31名
合計		209名

・保護者の意見を最大限尊重しながら、園や学校と連携を図り就学相談を行った。

- ④ 言語・発達障がい通級指導教室の運営

ことばの教室		ひびきの教室							実績合計
久松小学校	湖山西小学校	湖山小学校	美保南小学校	面影小学校	浜坂小学校	浜村小学校	南中学校	白兔養護	
18名	11名	18名	18名	22名	19名	15名	23名	2名	146名

・通級指導教室担当者とLD等専門員連絡協議会を年間5回開催。通級の手引きを作成。

・ひびきの教室については、年3回入級審査会を実施した。(5/31・9/15・2/24)

## ⑤ 教職員研修の充実

開催日	研修会名	内容等
5/12	特別支援教育主任 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の教育支援計画・指導計画」の作成と活用について (東部教育局 泉久美子指導主事)</li> <li>・特別支援教育の体制整備の充実について〈合理的配慮〉 (県教育委員会特別支援教育課 加藤典子係長)</li> </ul>
5/24	副校長・教頭研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の特別支援教育の方針について</li> </ul>
6/ 2	特別支援教育支援員 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級において特別な配慮を必要とする児童生徒への 支援の在り方について (島根大学 三島修治教授)</li> </ul>
6/30	特別支援学級担当者 連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の「個別の指導計画」の作成について (県教育委員会特別支援教育課 大林幹嗣指導主事)</li> </ul>
5/26 12/8	生徒指導専任相談員 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の理解と相談室の役割 (生徒指導係 狩野司係長)</li> <li>・学校不適応の子どもたちのために (市教育センター 渡辺雅子主任教育相談員)</li> </ul>
8/20	「ことばの発達」に 関する講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼・保・小・家庭でつなぐことばの育ち」 (国立成育医療研究センター 小枝達也部長)</li> </ul>
8/ 8 11/9 8/17	ひびきセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通じた特性の理解と具体的支援策の検討 (エール 川口栄所長・綾女京子課長補佐)</li> <li>・城北小2回、宝木小1回実施</li> </ul>



## (2) 成果と課題

○特別支援教育係が設置されたことで、不適応にかかわる相談を、迅速に就学相談につなげることができた。

○早期支援コーディネーターを中心に情報共有がスムーズにでき、チームで園や学校に効果的な移行支援をすることができた。

○SSTや「ことばの学習教室」「にじのきょうしつ」で保護者や児童生徒と繰り返し関わる中で、信頼関係のもとに発達の理解や保護者との協働的な支援を進めることができた。

△教職員研修会について、アセスメントと具体的支援等、学校の課題や悩みに対応した、より実践的な内容を組み込んでいくことが必要である。

△「個別の教育支援計画」等の様式の統一を行い、確かな引き継ぎができるようにしたが、引き継いだ情報を活用し、保護者と共に評価しながら支援を進めていくことが大切である。

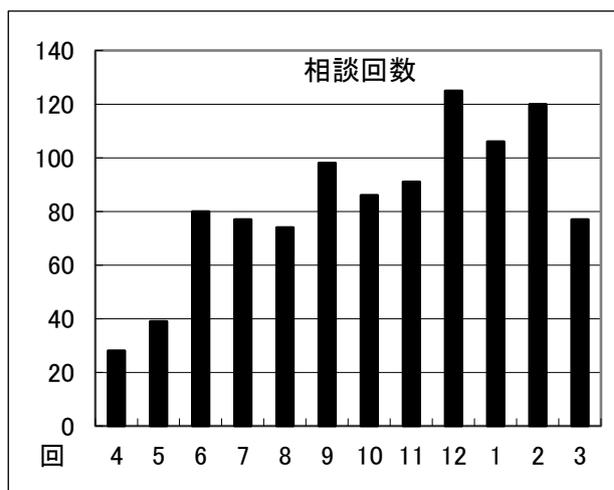
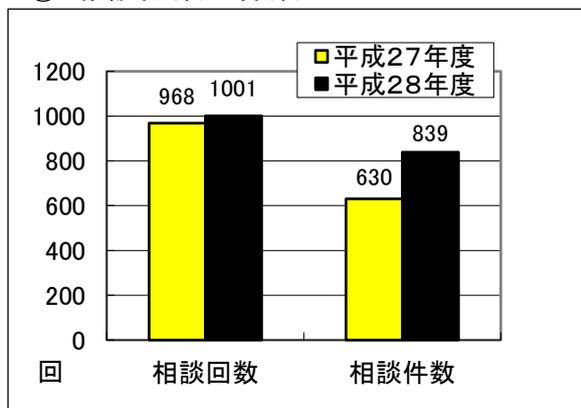
平成29年度は・・・

- 「情報の伝達と共有」から「情報の活用」へ → 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を生かした支援の充実を図る。
- 「小中学校教職員対応要領」を活用したインクルーシブ教育の理解と推進を図る。
- 軽度難聴児に対するFM補聴システム補助事業等、基礎的環境整備の充実を図る。

## 2 教育相談事業

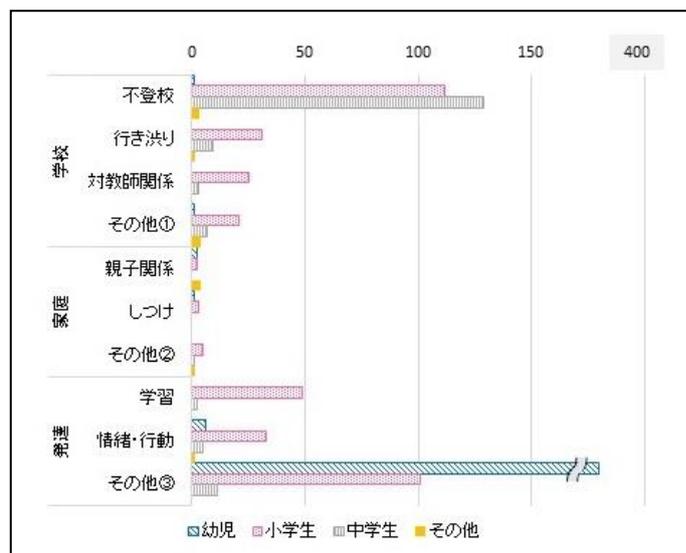
### (1) 相談支援

#### ① 相談回数・件数

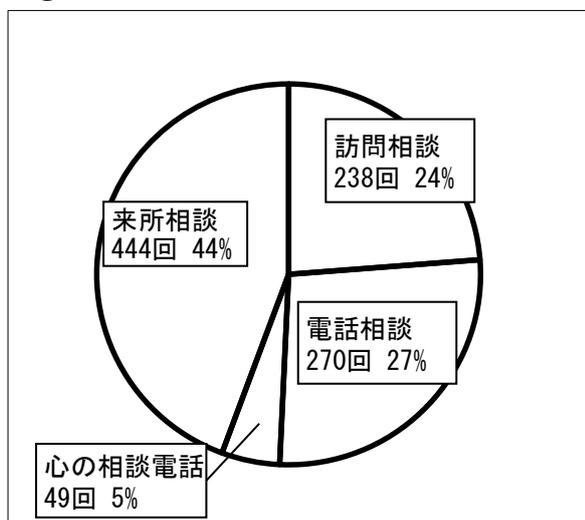


#### ② 相談内容

項目	対象	対象			
		幼児	小学生	中学生	その他
学 校	不登校	1	112	129	3
	行き渋り	0	31	9	1
	対教師関	0	25	3	0
	その他①	1	21	7	4
家 庭	親子関係	2	2	0	4
	しつけ	1	3	0	0
	その他②	0	5	1	1
発 達	学習	0	49	2	0
	情緒・行動	6	33	5	1
	その他③	379	101	11	0
	その他	18	16	13	11



#### ③ 相談形態



- ・相談件数が839件と昨年度よりも大幅に増え（209件増）、相談回数も1000回を超えた。
- ・訪問相談が、昨年度より60回増え、全体に占める割合も6%増となった。早期支援コーディネータの訪問による移行支援等を充実したためと考えられる。
- ・相談内容で、「発達（その他③）」が圧倒的に多いのは、特別支援教育係の設置により、「就学相談」が昨年度以上に増えたためである。

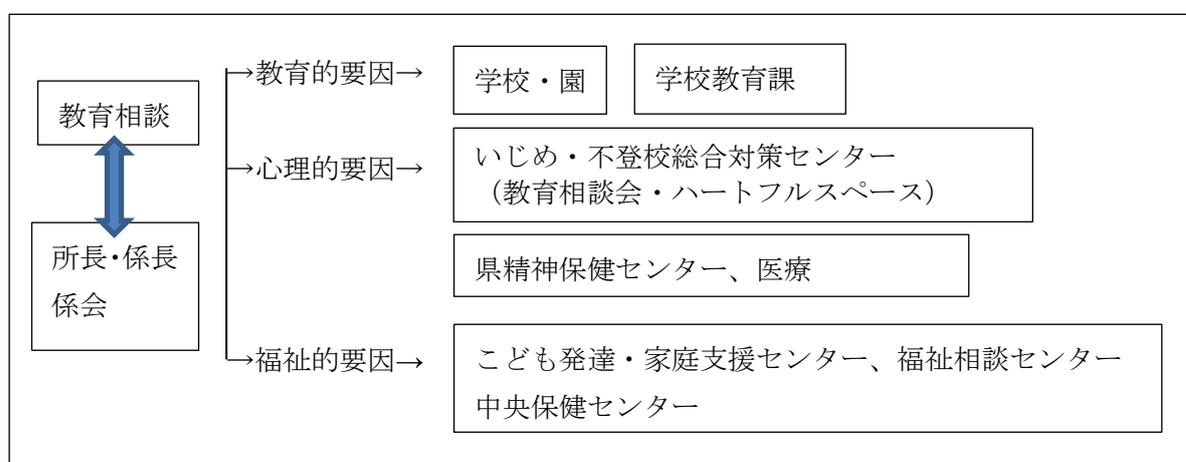
#### ④ その他の取り組み内容

##### ○巡回教育相談

- ・今年度も、保護者へのチラシ配布や各公民館でのポスター掲示等で啓発を図った。
- ・保護者が来談しやすいよう、相談を17:00～20:00の時間帯に設定した。
- ・各中学校区の設定時期に学校へ電話をし、相談ニーズのある保護者に紹介してもらうなどした。

##### ○各専門機関との連携

- ・「不登校」、「行き渋り」、「発達（情緒・行動、学習等）」の相談が多く、相談内容によっては、所属学校や専門機関につなげたり情報を提供・共有したりして、よりよい支援につながるよう心掛けた。
- ・特にいじめや体罰が疑われることは、迅速に学校教育課に連絡し、連携を図った。



## (2) 成果と課題

- 学校現場を知る相談員が、保護者に具体的なアドバイスをしたり、子どもや保護者の不安軽減のために定期的に相談やSSTを行ったりして、教育相談の充実に努めることができた。
- 特別支援教育係に位置づけられたことで、学校や幼稚園、関係機関との連携が強化され、子ども・保護者のニーズに沿った形での支援につなげることができた。
- △巡回教育相談の利用は7件（うち教育センター以外の会場利用は2件）で、昨年度8件より減少している。今後相談事業をどのように発展させていくか検討が必要である。

平成29年度は・・・

- 教育相談は教育センターで常時受け付ける。巡回教育相談については、事前の申し込みにより、別会場や時間外の相談にも対応することとする。発達検査等を取り入れた相談ができるよう、相談体制の強化に努める。
- 教育相談の記録方法や集計方法の合理化・簡略化等に努めるとともに、必要に応じて教育相談の状況を学校等に情報提供する。

### 3 適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営

#### (1) 入級状況

① 入級児童生徒数 計23名（小9名、中14名） ※3月末現在

		小学校						中学校			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	男	0	0	2	2	0	1	4	4	1	14
	女	0	0	0	0	2	1	1	1	2	7
レインボー	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
計		0	0	2	2	3	2	5	5	4	23

※11月にレインボー開設

② 月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入級児童生徒数	5	2	1	2	0	2	1	1	6	1	2	0	23

※10月に小4男子が退級(転出)したため、最終は22名

③ 適応状況

	適 応 状 況	入級時	3月末
1	ほとんど適応指導教室に通級することができない	4	3
2	週1～2日程度の通級または主に個別支援を中心に行っている	8	1
3	週3～5日程度の通級および集団での活動が可能	5	4
4	不定期に在籍校へ課業中や放課後に登校し、担任や他の教職員との関わりがもてる	3	3
5	定期的に在籍校への部分登校(授業・給食等)や相談室登校ができる	3	7
6	ほぼ毎日、在籍校に登校できる	0	5

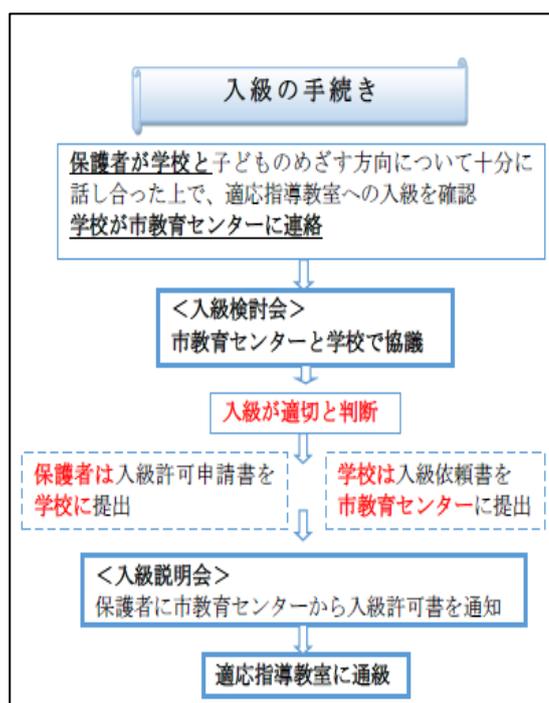
④ 卒業生進路状況

中学3年生4名(男子1名、女子3名)

- ・ 県立高校(全日・昼) 男子1名 女子1名
- ・ 私立高校(全日・昼) 男子0名 女子1名
- ・ フリースクール 男子0名 女子1名

⑤ 入級児童生徒について

- ・ 昨年度からの継続入級は5名。(年度当初からの継続4名。12月に再入級1名。)
- ・ 入級の手続きはしても1度も来所できなかった児童生徒は2名。
- ・ 今年度は中学生の割合が高く、体調不良や人間関係のトラブルなどで傷ついたことが不登校のきっかけとなっている事例が多い。



## (2) 教室の活動

「すなはま」教室 一週間の予定表						
		月	火	水	木	金
午前	来室 (9:30~10:00)	読書・自主学習・プランニング(今日の学習予定を決める)				
	10:00~10:50	学習①	体験 活動	学習①		
	10:50~11:00	休けい		休けい		
	11:00~11:50	学習②		学習②		
	11:50	昼のつどい		昼のつどい	昼のつどい	そうじ
午後	12:00~12:30	昼食(お弁当)				
	12:30~13:00	昼休けい				
	13:10~14:00	集団活動	体験活動	集団活動	スポーツ (体育館)	* チャレンジ 登校日を 個別に設定  * 最終金曜日は 閉室
	14:10~15:00	自由活動・今日のふいかえり				

### ① 学習

- ・児童生徒が教育指導員と相談しながら、一人一人自分で計画を立てて学習を行った。
- ・必要に応じて教育相談員と個別のSST(ソーシャルスキルトレーニング)学習に取り組んだ。
- ・鳥取県立豊学校手話普及コーディネーターと手話支援員を招き、手話活動を行った。(3回シリーズ)
- ・中学生の学習支援を行うために学習支援員(数学・英語)を活用した。(1月~3月 月2~3回)
- ・在籍校と連携し、定期テストや技能教科の作品を仕上げた。



### ② 集団活動

- ・生活経験を広げるとともに、集団での適応力や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に集団活動の時間を設定した。
- ・制作活動や調理活動、すなはま農園作業等を計画的に行い、見通しを持って活動に取り組んだ。



### ③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。バドミントン、卓球や縄跳び等を中心に運動を行った。



### ④ 昼のつどい

- ・来室時間の異なる児童生徒が一堂に会する時間として11時50分に設定した。
- ・話をじっくりと聞く態度の育成、自分の生活を振り返るきっかけ作りをねらい、センターの全職員が交代で、季節・行事・時事内容・言葉・人の生き方等、テーマを決めて話をした。



## ⑤ 体験活動

- ・地域の社会的施設や人材を有効活用し、地域の良さを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。
- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
- ・市内の小中学校の相談室登校や在宅等の児童生徒にも、外部に目を向け多様な経験をする機会として参加を呼びかけ、入級児童生徒との交流を図った。

【平成28年度 体験活動一覧表】

期日	内容	場所	期日	内容	場所
5/10	調理活動(炊き込みご飯・みそ汁)	すなはま教室	10/18	東郷湖探索 (JR利用)	倉吉方面
5/17	青谷和紙工房・上寺地遺跡見学	青谷方面	10/25	交流活動 (保育園訪問)	福部方面
5/24	湖山池(石がま漁)・青島探検	湖山方面	11/1	殿ダム周辺ハイキング	国府方面
5/31	わらべ館見学	鳥取市西町	11/8	楽しく体を動かそう/県立博物館見学	体育館/博物館
6/7	やまびこ館・樗谿公園見学	鳥取市上町	11/15	そば打ち体験	国府方面
6/14	ファブラボ体験	文化センター	11/22	交流活動 (デイハウスじゅんぷう)	鳥取市玄好町
6/21	山陰海岸学習館	福部方面	12/6	こどもの国体験・砂の美術館見学	砂丘方面
6/28	調理活動 (ポテトサラダ)	すなはま教室	12/13	もちつき体験	すなはま教室
7/5	ちくわ作り・ブルーベリー狩り	河原・徳尾方面	1/17	リファーレンいなば体験	鳥取市伏野
7/12	鳥取警察学校・鳥取砂丘コナン空港見学	湖山方面	1/24	音楽鑑賞 (きらきら☆楽団)	すなはま教室
9/6	絵画教室 (アトリエ小学校) と雨滝	国府方面	1/31	国際交流 (参観日)	すなはま教室
9/13	野外炊事→調理活動 (カレー)	すなはま教室	2/7	折り紙で作品作り	すなはま教室
9/20	交流活動 (デイハウスじゅんぷう)	台風で延期	2/15	新日本海新聞社・市立中央図書館見学	大雪のため中止
9/27	調理活動 (クレープ)	すなはま教室	2/21	調理活動 (カレー作り)	すなはま教室
10/4	白兔グランドゴルフ体験	鳥取市伏野	2/28	高砂屋・NHK見学	鳥取市寺町
10/12	乗馬体験 (空山ポニー牧場)	鳥取市越路			計29回



鳥取空港見学



ポニー牧場乗馬体験



保育園児との交流



餅つき体験

## (3) 保護者・在籍校・関係機関との連携

### ① 入級検討会

- ・保護者や本人、在籍校から入級希望や相談が寄せられた場合、まずは入級検討会を開き、対象児童生徒にとって適応指導教室入級が適切かどうかを検討した。(学校関係者・センター職員)

### ② 入級説明会

- ・適応指導教室利用についての説明会。対象児童生徒にとってより良い支援の在り方や、家庭・学校・適応指導教室の連携について確認した。(本人、保護者、学校関係者、センター職員)

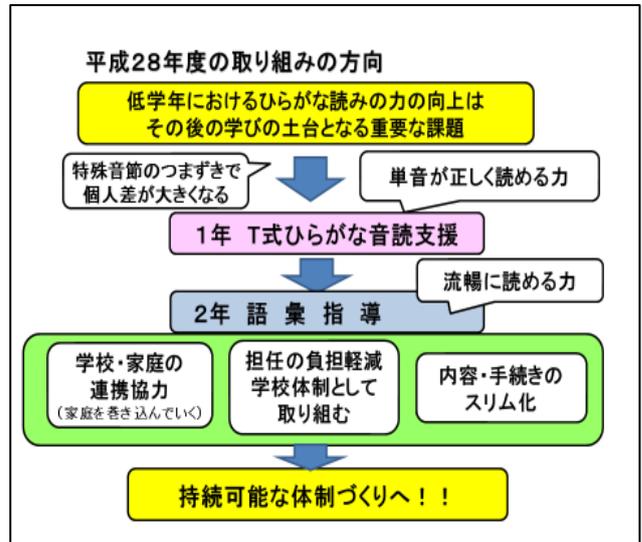


## 4 学校支援 ～ T式ひらがな音読支援事業～

### (1) 目的

T式ひらがな音読支援プログラムを実施し、小学校1年でひらがな読みの正確さを、2年で流暢さを重点に支援することにより、読みの困難さから生じる学力不振や不登校・学校不適応行動の未然防止を図る。

「家庭との連携協力」「学校体制の取り組み」「内容手続きのスリム化」を柱に、持続可能な体制づくりを行う。



### (2) 取組内容

#### ① 1年ひらがな音読支援（全1年児童対象）

#### < 1年用データシート >



個人番号		第1回確認		第2回確認		第3回確認		
		直音連続読み	直音連続読み	単音連続読み	単音連続読み	単文音読		
		1分文字数≦54 (A-B)	1分文字数≦70 (A-B)	未習得≧6個	時間≧63秒	未習得≧9個	時間≧67秒	時間≧35秒
例		54	70	6	63.00	9	67.00	35.00
1	男	80	102	0	35.40			
2	女	70	102	17	32.44	0	46.03	15.50
3	男	67	110	0	46.73			
4	女	116	114	0	31.59			
5	女	92	128	1	36.32			
6	女	57	65	8	90.47	0	47.79	33.14
7	男	99	111	0	26.88			
8	女	73	92	0	35.20			
9	女	55	79	9	49.36	0	58.97	24.89

- 第1・2回は全1年児童対象に音読確認、要支援児童対象に5分×21回のタブレット支援を実施。第3回音読確認は第2回要支援児童のみとし、第3回要支援児童に5分×15回の音読支援を実施した。
- データシートを作成することにより、「確認」と「支援」の間の時間ロスをなくし、全児童の変容を各学校でも把握しやすいようにした。
- 今年度は、家庭の支援体制及び校内での級外の協力体制を推進した。保護者に説明会を行い、学校と家庭で曜日分担するなど連携して取り組んだ学校もあった。
- MIMについては、希望4校にパッケージと作成した教材グッズを配布し、授業における活用の仕方についてオリエンテーションするとともに、年2回のMIM-PMを実施した。

#### ② 2年語彙指導

- 平成27年度最終要支援者となった52名のうち、7名が特別支援学級に入級、2名が通級指導教室につながった。

- ・ 学校からの追加希望を含めて44名にアプリを活用した語彙指導（学校39名・センター5名）、学校独自支援の2名にはカード等を活用した個別支援が実施された。
- ・ 今年度の語彙指導アプリを使用した各校でのタブレット支援は、前・後期とも20分×20回を基準とし、各校で可能な実施時間の組み方が工夫された。
- ・ 中間確認で8名、最終確認ではさらに12名が基準値に達した。全体的には、46名中20名が基準値に達し、通過率は43.5%だった。

### ③ ことばの発達講演会 平成28年8月20日（土）9時～11時30分

演題：『幼・保・小・家庭でつなぐことばの育ち』

講師：国立成育医療研究センターこころの診療部長 小枝達也氏

- ・ 幼・保・小・中・特別支援学校の教員・保護者・関係機関職員等、192名が参加した。
- ・ ことばの力がどのように育っていくのか、また、それぞれの立場で子どもとどのように関わり、豊かな語彙力を育てていけばよいか、具体的な手立てを学ぶとともに、音読支援の取り組みの大切さについても再確認することができた。



## (3) 結果の概要

平成28年度 1年ひらがな音読支援結果					語彙指導児童の音読確認平均値				
	第1回確認	第2回確認	第3回確認	最終確認		単 音		単 文	
実施人数	1,573	1,576	119	40	1年次 (最終) 44人	基準値 時間≥67秒	未習得≥9個	時間≥35秒	
要支援数	150	122	40	23		平均	56.61	2.59	42.80
要支援率 (対象比)	9.54%	7.74%	33.61%	57.50%	2年次 (中間) 46人	基準値 時間≥54.7秒	未習得≥4.4個	時間≥17.3秒	
要支援率 (全体比)	9.54%	7.74%	(2.53%)	(1.46%)		平均	53.82	1.33	28.11
			全体1,578人		2年次 (最終) 37人	基準値 時間≥54.7秒	未習得≥4.4個	時間≥17.3秒	
						平均	47.97	0.78	22.03

## (4) 成果と課題

- 持続可能な体制づくりに向けて見直しを図ったプログラム（3回目は2回目に要支援となった児童のみ）については、学校からの継続要望が多かった。また、1年の85家庭がタブレット支援に協力するなど、家庭と学校が役割分担している学校も増加した。
- データシートの活用は、確認一支援の時間短縮、学級全員の変容の把握に効果的だった。
- △読みの確認や支援を行う校内協力体制への理解が深まりつつある。本事業の重要性の確認と各学校の実態等に応じた校内体制づくりへの更なる働きかけが必要である。

平成29年度は・・・

- 今年度、各校にスラッシュカード（まとまりを意識して読む練習カード）や漢字カルタを作成・配信し活用を勧めた。今後もさらに有効な支援方法を提示する。
- 教育センターでの語彙指導は実施しないが、支援状況の把握と、有効な支援方法について情報交換やアドバイスをするため、学校訪問を充実していきたい。

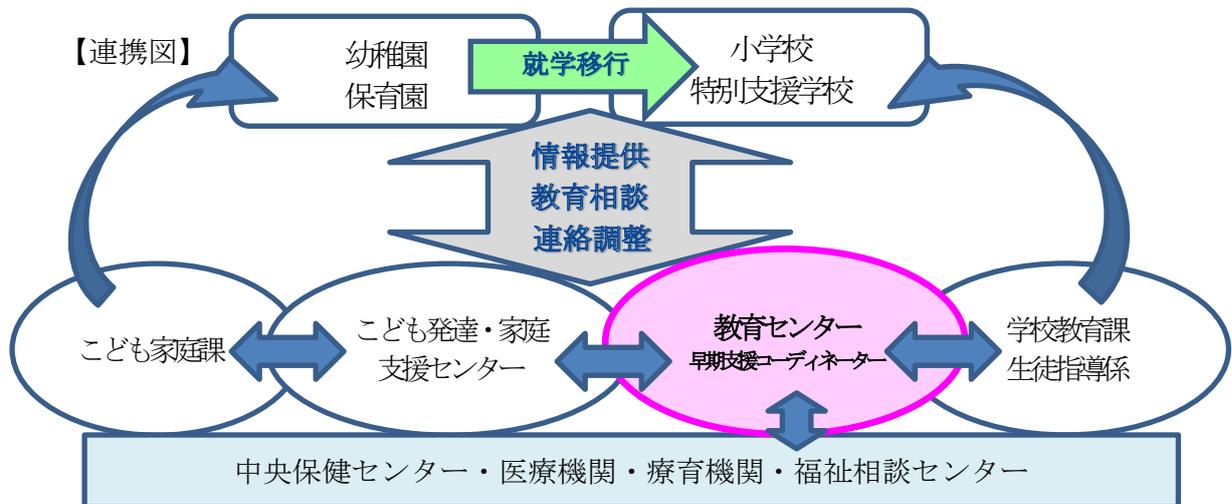
## 5 学校支援 ～早期からの教育相談・支援体制構築事業～

### (1) 目的

特別な支援が必要となる可能性のある子ども及びその保護者に対し、早期から情報の提供や教育相談を実施し、柔軟できめ細やかな就学移行ができる一貫した支援体制を構築する。

#### 【早期支援コーディネーターの役割】

- ① 就学支援に関し、教育・保育・福祉・保健・医療等の関係部局・機関や地域等との連絡・調整、情報収集
- ② 就学期に関する教育相談と移行支援
- ③ 本人・保護者への就学に関する情報の提供



### (2) 取組内容

#### ① 相談内容と実績

1	園訪問による早期の教育相談	私立等 13園 23回	実数 31名
2	園訪問後の継続個別相談	31回	延べ 31名
3	学校見学に関する相談・引率	14回	実数 13名
4	就学時健康診断後の就学相談	7回	延べ 7名
5	就学移行支援会議への出席	12回	実数 11名
6	就学後の支援会議（フォロー会議）	2回	実数 2名
7	5歳児発達相談会場での教育相談	6回	実数 30名
8	就学後の保護者相談（来所・電話）	11回	実数 5名

#### ② 連携強化の取り組み

- ・年度初めの園訪問と夏休み前の声かけ・訪問、就学時健康診断後の就学相談を行い、園支援と学校への引き継ぎの充実を図った。
- ・四課会（こども家庭課、こども発達・家庭支援センター、中央保健センター、教育センター）や二課会、他機関主催の健診・研修会に参加し、関係機関との連携を強めた。
- ・園や小学校の就学相談に対する理解を深めるため、「就学相談の手引き」を配付した。

### ③ 「にじのきょうしつ」(就学前小集団活動)

**【目的】** 小学校入学後の困り感が大きいことが予想される子どもに対して、入学時に必要なスキルやルールを学ぶ機会をつくり、家庭と連携しながら入学に対する自信を育む。

- ・今年度は、7名の園児と保護者が通所した。
- ・AとBの2グループに分け、隔週火曜日に、約1時間の活動を行い支援した。
- ・早期支援 Co. の保護者への教育相談・就学相談  
→ 延べ28名(実数6回×3名、3回×2名、2回×2名)

#### 【「にじのきょうしつ」在籍人数】

グループ 月	A	B	グループ 月	A	B	グループ 月	A	B
4月	0	0	8月	2	1	12月	4	2
5月	1	1	9月	3	1	1月	6	0
6月	1	1	10月	4	0	2月	6	0
7月	1	1	11月	4	0	3月	6	0

#### 【支援内容】

- 人とのかかわり
- 感情表現・コントロール
- 約束の理解・行動化
- 身に付けておきたい技能
- 聞く・話す・書く意欲
- ひらがな・数字への興味・関心

●Aグループ：20回実施 → 延べ63名参加

●Bグループ：6回実施 → 延べ7名参加

### (3) 成果と課題

- 一年を見通した園訪問・声かけにより、段階的に実態把握ができたことで、園や保護者への就学相談につながり、小学校に引き継ぐ体制作りができた。
- 「にじのきょうしつ」では、小学校生活につながる体験をしたことで、自信を持って活動する児の姿が見られるようになった。保護者に対しては、後半から毎月1回目は保護者同士の情報交換、2回目は早期支援 Co. による個別相談の場を設け、安心感も高まった。
- 「就学に関する教育相談」の保護者向けリーフレットの配付や学校見学の引率・就学相談を行い、保護者への情報提供や理解・啓発が図れた。
- 移行支援会議が園主催で進んで行われることが多くなり、幼保から小学校への引き継ぎの流れが定着してきた。
- △就学に向けて、関係機関が連携し効果的な支援を行うために、教育センターを中心とした情報の共有を検討していく必要がある。
- △就学時健康診断後に初めて就学指導の対象として挙がってくる児も多かった。早めに情報を得て対応していけるような働きかけの工夫や人員体制が必要である。
- △「にじのきょうしつ」の位置付けに沿った、周知と活用を進めることが必要である。

平成30年度は・・・

- 年間の見通しを持った就学移行支援体制を強化するため、「育ちをつなぐ」「就学相談の手引き」の周知と活用を図る。
- 関係機関の情報共有の在り方を検討し、一貫した就学相談や移行支援を行う。

## 6 教職員研修

### (1) ねらい

鳥取市の特色や学校・地域の実態、教職員のニーズを踏まえ、関係機関等と連携しながら、鳥取市教育ビジョン「ふるさとを思い 志をもつ子」の実現につなげる。

(主な事業)

- ・鳥取市教職員としての資質・指導力の向上をめざした研修の実施
- ・新たな教育課題に対応するための各種事業の企画・運営、学校教育活動の円滑な実施のための支援、教育情報の提供

### (2) 実績

研修名	開催日	内 容	参加者
初任者研修	4/ 4	講義「子どもの心をつかむ極意～意図的・計画的生徒指導の実際～」	45名
	7/29	①演習1「心をつなぐコミュニケーションゲーム」 ②講義「やってみよう！道徳の時間」 ③演習2「『鳥取市の志』を子どもたちのものにするために」	38名
	5/18～ 6/28	新卒初任者学校訪問 (授業公開・管理職面談・初任者面談)	12名
	9/26～ 11/29	初任者学校訪問 (授業公開・管理職面談・初任者面談)	37名
	11/29 12/ 2 12/ 9	南中学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 面影小学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 津ノ井小学校初任者公開授業（道徳）及び研究協議 ①協議1「公開授業から考える」 ②協議2「魅力ある授業のために」	33名
講師研修	8/19	①演習「事例研究から児童生徒理解を考える」 ②講義「学級づくりで大切にしたいこと」	127名
	11/14 ～ 12/13	7小学校、3中学校において先輩教諭の授業参観及び研究協議 ①講話1「教師としての姿勢」（校長） ②講話2「授業づくりと学級経営（保健指導と保健室経営）」 (授業者)	127名
学力向上 研修	6/ 7	①説明及び協議1「本年度の学力向上の取り組みについて」 ②説明及び協議2「各学校の取り組みに生かすために」	60名
	12/12	①説明「今後の学力向上の取り組みについて」 ②協議「各学校の取り組みの経過について」	59名

研修名	開催日	学校名	研修内容	参加者
教師力向上 サポート研修	6/17	末恒小学校	○児童生徒理解 ○学習課題設定について	10名
	6/29	散岐小学校	○算数科学習指導について	12名
	7/20	鹿野小学校	○国語科単元学習の進め方	15名
	8/ 3	明德小学校	○国語科単元学習の進め方	10名
	8/ 3	醇風小学校	○児童生徒理解 ○保護者との連携の進め方	16名
	9/14	中ノ郷小学校	○SSTについて ○グループエンカウンター演習	18名

### <次代を担うとっとり教職員派遣>

#### ①県外派遣

	研修テーマ	時期及び派遣先	研修生
1	学力向上	7/ 4～7/ 8 福井県福井市日之出小学校	明德小学校 常村美穂子 教諭
2	学力向上	6/20～6/24 広島県広島市立神崎小学校	美和小学校 中田 早紀 教諭
3	学力向上	6/27～7/ 1 秋田県大仙市立大曲西中学校 7/ 1 大川西根小、内小友小	国府中学校 東口 朋代 教諭
4	学校不適應の解消	6/20～6/24 岡山県総社市立総社小学校	世紀小学校 北川 一朗 教諭
5	自治力の育成	7/11～7/15 京都府長岡京市立神足小学校	津ノ井小学校 前田 浩 教諭
6	自治力の育成	7/11～7/15 京都府長岡京市立神足小学校	浜坂小学校 山本 香織 教諭
7	自治力の育成	7/ 4～7/ 8 神奈川県横浜市立富岡中学校	桜ヶ丘中学校 高藤 淳子 教諭
8	学校の組織力向上	6/13～6/17 香川県高松市立高松第一小・中学校	鹿野小学校 前島 要次 教諭
9	自主テーマ(言葉でつながる 学級づくり・授業づくり)	7/ 4～7/ 8 高知県吾川郡いの町立伊野南小学校	宮ノ下小学校 濱橋 寿一 教諭
10	自主テーマ(縦持ち指導)	6/20～6/24 福井県福井市明倫中学校	湖東中学校 井上 慶亮 教諭

#### ②報告会

開催日	場 所	内 容
8/ 5	とりぎん 文化会館	全派遣者による報告および質疑応答 第1分科会『喜んで登校、満足して下校』は自治力の育成から 第2分科会「子どもたちの主体的な学びをみんなの力で」 第3分科会「チームですすめる特色ある学校づくり」

### (3) 成果と課題

#### ① 初任者研修会

- ・新卒採用者が増加したこともあり、初任者がしっかりと考え、学校現場に生かしていける内容の研修を行った。
- ・初任者訪問が校内OJTを生かした研修に結びつくよう、管理職や初任者担当者に働きかけを行った。初任者は先輩教員の支援・指導を受けながら研修・実践を行った。さらに、研修の意欲と実践に生かしていけるよう、今後もよりきめ細やかな研修体制・内容を企画する必要がある。



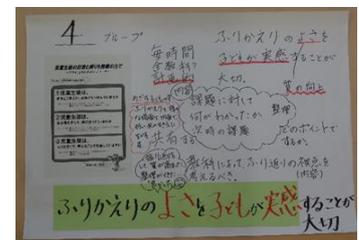
#### ② 小・中学校講師研修会

- ・第1回は、夏季休業明けからの実践への意欲を高める有意義な研修となった。また、「先輩に学ぶ」研修では、授業参観や学校長の講話に多くの刺激を受け、自らの実践を振り返り、何をすべきかを考えるよい機会となったようである。



#### ③ 学力向上研修会

- ・第1回研修では、学力向上の3要素を柱に、各学校の取り組み計画を中学校区で意見交換し、他の中学校区とも情報交換できた。全国学力・学習状況調査の問題を解き、授業改善の視点など今後の活用について協議が行われ、実践に取り入れたいという感想が多かった。
- ・第2回研修では、全国学力・学習状況調査結果から取り組みの成果と課題を確認し、授業での「ふりかえり」の質的向上をめざした具体的な対策について協議を行った。今後も市全体のレベルアップを図る研修を継続したい。



#### ④ 教師力向上サポート研修

- ・各学校とも、講義ではなくエクササイズを取り入れたり、事例研究を行ったりする研修が中心となった。また、学習指導要領の改訂に伴う新たな研究の展開を見据え、新しい情報に関心を持って研修を実施した。

#### ⑤ 次代を担うとっとり教職員派遣

- ・研修内容を勤務校での実践に生かしたり、他校への普及効果を高めたりするために、前期1回のみの実施とし、10名を派遣した。
- ・全教職員研修会において3分科会で研修報告を行い、活発な質疑応答がなされた。研修先や実施方法等について今後も検討を重ね、本市学校教育全体の発展・充実を図りたい。

平成29年度は・・・

- 参加者が主体的に学ぶ研修内容・方法を工夫するとともに、若手教職員の育成を中心に、校内OJTの活性化を図る働きかけを行う。
- 学校の実態や教職員のニーズを踏まえながら、中核市移行に向けて市ならではのきめ細やかな研修体系を構築し、学校等に周知を図る。

## 7 学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～

### (1) ねらい・内容

- ・小学校外国語活動では、担任主導の学習展開を基本とするが、外国語や外国の文化に慣れ親しませたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたりするために、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーと触れ合うことが効果的である。
- ・小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語活動の授業を補助する人材を活用し、外国語活動の円滑な実施及び充実を図る。
- ・各学校が自主的に依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介を受けたりして確保した支援員により、5・6年生の各学級につき年間12時間分の外国語活動授業において担任の授業を補助する。

### (2) 配置実績

- ・市の事業41校、県の事業19校で、後者の学校はすべて前事業を併用(2名配置は2校)
- ・配置した支援員は20名で、12名が兼務(最も多い支援員で5校)
- ・外国人支援員は9名、日本人支援員は11名

### (3) 成果と課題

- 豊富な指導経験を生かした楽しい授業展開で、児童の興味・関心を引き出している。
- 継続して同じ学校を支援していただき、児童も安心して活動に取り組めた。
- 授業の組み立てや活動の工夫など、担任にとって支援員の指導力が参考となっている。
- ネイティブの発音や文化・習慣の違いについて聞くことができるなど、児童にとって貴重な経験となり、学習への興味・関心も高まった。
- △支援員への連絡、打ち合わせやふり返りについての時間の確保が難しかった。
- △外国籍の支援員の場合、コミュニケーションの取り方を工夫する必要がある。
- △今後の学習指導要領実施に向けて、支援員の人数をさらに確保することや支援員全体の指導力を高めることが必要である。

平成29年度は・・・

- 国から提示される情報に基づき、今後の外国語活動支援員の活用の在り方について検討し、学校への周知を図る。
- 学校のニーズを踏まえながら、先行実施及び完全実施に向けた外国語活動支援員の確保に努める。

## 8 きなんせ！ English World

### (1) ねらい

外国語指導助手（ALT）や地域の外国人との活動を通して、児童がたっぷりと英語にふれ、視野を広げ、英語で積極的にコミュニケーションしようとする意欲を高めるきっかけとする。

### (2) 実績

（きなんせ！ English World）土曜学習 9:55～11:45

回	期 日	活動内容	スタッフ	参加者
1	6月4日	夏をテーマにした活動 (テレフォンゲーム、アイスクリーム・トッピング、ビンゴ)	ALT13名 支援員2名	30名
2	10月22日	鳥取県中部地震のため中止		
3	12月10日	クリスマスにちなんだ活動 (テレフォンレース、タイフーン、カラー・ザ・サンタ)	ALT12名 支援員2名	24名
4	2月25日	冬の行事にちなんだ活動 (アルファベット・カルタ、タイフーン、スペリング・ハント)	ALT13名 支援員2名	22名

（きなんせ！ English World キャラバン）水曜日実施

回	日 時	学校	スタッフ	参加者
1	5月25日 9:00～15:00	湖南学園	ALT13名、支援員2名	158名
2	6月15日 9:00～15:00	東郷小学校	ALT 6名、支援員1名	25名
3	6月15日 9:00～15:00	青谷小学校	ALT 6名、支援員1名	144名
4	6月22日 9:00～15:00	浜坂小学校	ALT10名、支援員2名	534名
5	7月 6日 9:00～11:45	浜村小学校	ALT 5名、支援員2名	6年 56名
6	7月 6日 12:00～15:00	鹿野小学校	ALT 5名、支援員2名	6年 28名
7	9月21日 9:00～15:00	美和小学校	ALT 6名	148名
8	9月21日 9:00～12:45 13:00～15:00	国府東小学校 国府中学校	ALT 7名、支援員1名	小学校 102名 中学校 56名
9	9月28日 9:00～15:00	末恒小学校	ALT12名、支援員1名	328名
10	10月19日 9:00～12:45	城北小学校	ALT11名、支援員1名	5・6年 194名
11	11月 9日 9:00～15:00	福部未来学園	ALT10名	小学校 132名 中学校 23名
12	11月30日 9:00～15:00	賀露小学校	ALT10名、支援員1名	330名
13	12月 7日 9:00～13:00	面影小学校	ALT 6名、支援員1名	4～6年 168名
14	2月 1日 9:00～15:00	遷喬小学校	ALT 6名、支援員1名	110名
15	2月 1日 9:00～15:00	湖南学園	ALT 6名、支援員1名	158名

### (3) 主なアクティビティ

小・低学年	○英語を聞いて体を動かしながら、外国人とのふれあいを楽しむ活動 (例)・フルーツ (動物、ハロウィン、クリスマス、色等) バスケットゲーム ・「好き・きれい」ゲーム (食べ物、季節等) ・数字を使ったアクティビティ
小・中学年	○英語を聞いたり単語を伝えたりしながら、英語にたっぷり触れる活動 (例)・カルタゲーム (動物、フルーツ、数字、季節等) ・伝言ゲーム (動物、フルーツ、数字等)
小・高学年	○外国語活動で慣れ親しんだ表現を用いて外国人とコミュニケーションする活動 (例)・コミュニケーション活動 (自己紹介、趣味、特技、行ってみたい国、将来の夢等)
中学校	○外国語授業で身に付けた表現を活用して外国人とやりとりする活動 (例)・コミュニケーション活動 (鳥取について、自分の夢、文化の違い等)

### (4) 成果と課題

○English World を3回、ALT等が学校に出かけるキャラバンを15回実施し、約2,800名の児童生徒が外国人と英語でコミュニケーションできた喜びを体験した。ALT等とのコミュニケーションの場面を多く設定したり、文字を意識して活動内容レベルを徐々に上げたりするなどの工夫により、ほぼ全員が「楽しかった、また参加したい」と回答しており、満足度は高い。



○特に、土曜日に実施する English World に複数回参加した児童は、積極的に活動しており大きな進歩がみられる。このような参加体験が、「鳥取市グローバル人材育成事業 (中学生シンガポール派遣研修)」などに発展的につながっていくことを今後も期待している。



○スタッフのALTや地域人材が主体的に企画・活動に参加できており、情報交換や指導力向上の機会にもなっている。

△各種行事等の関係か、土曜日の English World に参加した児童が予想より少なかった。対象学年の幅を広げることも含め、今後検討が必要である。

平成29年度は・・・

- 「キャラバン」では、新規実施校を増やすとともに、小・中連携も意識しながら学年段階に応じた活動を工夫する。
- 土曜実施の「きなんせ」では、活動内容を充実させながらレベルアップを図り、参加者を増やしたい。

## 平成28年度 所報第10号

発行日 平成29年3月31日  
発行所 鳥取市教育センター  
〒680-0053 鳥取市寺町150番地  
TEL (0857) 36-6060  
FAX (0857) 26-3878  
E-mail [kyo-center@city.tottori.lg.jp](mailto:kyo-center@city.tottori.lg.jp)  
URL <http://www.city.tottori.lg.jp/>

